

1 癌と危険因子の組合せで誤っているのはどれか。

- a 食道癌——— 飲 酒
- b 皮膚癌——— 紫外線
- c 結腸癌——— 高脂肪食
- d 子宮体癌——— ヒト乳頭腫ウイルス
- e 胃 癌——— ヘリコバクター・ピロリ感染

2 市民の生命・健康にかかわる法律と、その施行時期の組合せのうち、誤っているのはどれか。

- a 母体保護法——— 平成 8 年成立、同年施行
- b 臓器の移植に関する法律——— 平成 9 年成立、同年施行
- c 児童虐待の防止等に関する法律——— 平成 12 年成立、同年施行
- d 健康増進法——— 平成 14 年成立、平成 15 年施行
- e がん対策基本法——— 平成 18 年成立、平成 19 年施行

3 閉塞性黄疸による症候として誤っているのはどれか。

- a 皮膚瘙痒
- b 意識障害
- c 濃褐色尿
- d 灰白色便
- e 眼球結膜黄染

4 項部硬直で正しいのはどれか。

- a 頭を後屈させると抵抗がある。
- b 頭を前屈したときのみ抵抗がある。
- c 頭を左右に回転させると抵抗がある。
- d 頭を前屈させると背中に電撃痛が生じる。
- e 頭を持ち上げ急に落とすとゆっくり落ちる。

5 浮腫を伴わないのはどれか。

- a 肝硬変
- b 蜂窩織炎
- c 上大静脈症候群
- d 甲状腺機能低下症
- e 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH)

6 医学原著論文を検索するのに適切なインターネット上のデータベースはどれか。

- a Books@OVID
- b Cochrane Library
- c Journal Citation Reports
- d MEDLINE
- e UpToDate

7 薬の効能を検証する研究方法で最もエビデンスレベルが高いのはどれか。

- a 症例研究
- b コホート研究
- c 症例対照研究
- d 無作為化比較対照試験
- e 無作為化比較対照試験のメタアナリシス

8 疾患と臨床所見の組合せで誤っているのはどれか。

- a 急性心筋炎——— 非特異的 ST 変化
- b 心タンポナーデ——— 頸静脈怒張
- c フレイルチェスト——— 胸郭動揺
- d 敗血症性ショック——— 中心静脈圧上昇
- e 急性閉塞性化膿性胆管炎——— 直接ビリルビン高値

9 下記疾患が疑われる場合、腰椎穿刺の適応とならないのはどれか。

- a 結核性髄膜炎
- b 後頭蓋窩腫瘍
- c 良性頭蓋内圧亢進症
- d 正常圧水頭症
- e くも膜下出血

10 得られた身体所見と原因との組合せで考えにくいのはどれか。

- a 上腹部腫瘤——— 胃 癌
- b 下腹部巨大腫瘤——— 卵巣嚢腫
- c 臍下部腫瘤——— 前立腺癌
- d 心窩部正中皮下腫瘤——— 剣状突起
- e 腹部拍動性腫瘤——— 腹部大動脈瘤

11 インフォームドコンセントで最も重要なのはどれか。

- a 医師による説明
- b 文書による説明
- c 患者による意思決定
- d 医事訴訟での責任回避
- e 医療従事者のサポート

12 正しいのはどれか。

- a 臨床研究のため必要な検査は、今後の医学の発展のために最優先すべきであり患者の同意は必要ない。
- b 患者に癌の告知をする場合、医師の作業効率を上げるため短時間で言うべきである。
- c 病状説明する際に、医師以外の医療従事者を同席させることが望ましい。
- d 患者の動揺や混乱を助長させるので病状説明を紙に書いて行うべきでない。
- e 高校生であれば病状説明、手術等の説明は本人だけに行えばよい。

13 8歳の男児。自宅で鼻をかんだ後から鼻出血があり図のような体位をとらせたところ5分で止血した。

予想される出血部位はどれか。

- a 上顎洞
- b 上鼻道
- c 上咽頭
- d 中鼻道
- e 鼻中隔



図

14 25歳の男性。矯正視力は右眼（1.2 × - 1.00 D）、左眼（1.2 × - 1.00 D）であった。

裸眼で25 cmの距離の文字を見るとき必要な調節力はどれか。D=diopeter

- a 0 D
- b 1 D
- c 2 D
- d 3 D
- e 4 D

15 個人情報保護法の原則について誤っているのはどれか。

- a 適切な方法による取得
- b 内容の正確性の確保
- c 目的外利用の禁止
- d 医療の適用除外
- e 透明性の確保

16 62歳の女性。昼食に天ぷらを食べたところ、午後に心窩部から右季肋部にかけて反復する痙痛が出現したため来院した。腹部超音波写真を示す。

この患者に認められる身体所見はどれか。

- a Murphy 徴候
- b Courvoisier 徴候
- c Mcburney の圧痛点
- d 腹部の波動（fluctuation）
- e CVA（costovertebral angle: 肋骨脊柱角）叩打痛



腹部超音波写真

17 54歳の男性。現病歴：特記すべき自覚症状なし。健診にて異常を指摘され来院。喫煙20歳より30本/日、アルコール20歳より、15年前からビール大瓶1本と日本酒2合/日。検査所見：空腹時血糖123 mg/dl、総コレステロール260 mg/dl、トリグリセライド180 mg/dl（基準50～130）。

この患者に対する治療として誤っているのはどれか。

- a 栄養指導
- b 禁煙指導
- c 禁酒指導
- d 75gOGTTを予約する。
- e 薬物治療を直ちに開始する。

18 52歳の男性。左中大脳動脈領域の心原性脳塞栓症にて入院した。入院後3週間経過した時点での神経所見は、意識清明で運動性失語のため単語のみ発音可能である。さらに、右上肢は廃用手、右下肢は短下肢装具の装着で歩行器歩行レベルである。

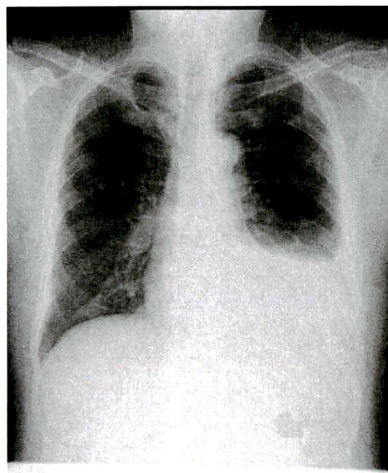
在宅療養に向けて退院準備を行う方針となったが、この時点で適応がないのはどれか。

- a 入浴サービス
- b 介護保険の認定
- c 通院リハビリテーション
- d 身体障害者手帳の認定
- e ベッド設置等の屋内環境整備

19 38歳の男性。2日前より湿性咳嗽、発熱が出現。本日より吸気時に増強する激しい左胸痛、呼吸困難を自覚し受診。体温 38.6℃。脈拍 104 回/分、整。血圧 148/86 mmHg。経皮的酸素飽和度 (SpO₂) 86 %。打診で左下肺野は濁音。呼吸音は左下肺野で消失しているがラ音は聴取されない。心音純。胸部エックス線を示す。

診断に最も有用な検査はどれか。

- a 胸水検査
- b 心エコー検査
- c 動脈血ガス分析
- d 胸部造影CT検査
- e 左側臥位胸部エックス線検査



胸部エックス線

20 48歳の男性。約2週間前から空腹時に上腹部痛を自覚していた。右上腹部の激痛が突然出現したため救急外来受診した。

既往歴：3年前に十二指腸潰瘍で薬物療法を受けた。

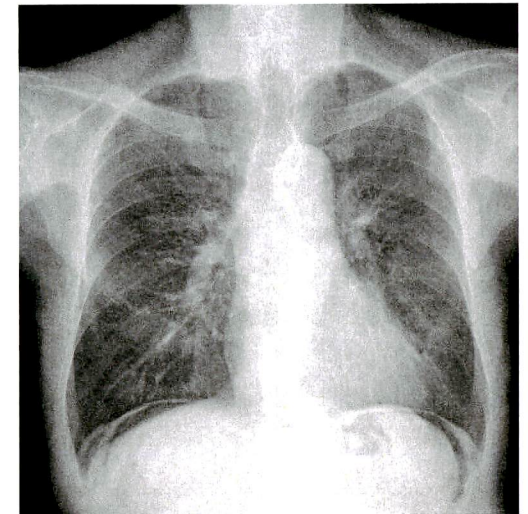
現 症：身長 172 cm、体重 62 kg。体温 38.6℃。脈拍 140 /分、整。血圧 130/80 mmHg。

血液所見：白血球 14,000、赤血球 360 万、Hb 11.4 g/dl、血小板 36 万。

血液生化学所見：総蛋白 6.4 g/dl、アルブミン 3.2 g/dl、尿素窒素 40 mg/dl、クレアチニン 1.2 mg/dl、AST 40 U/l、ALT 45 U/l、アミラーゼ 140 U/l (基準 37~160)。CRP 3.0 mg/dl。来院時の胸部エックス線写真を示す。

この患者の腹部身体所見でみられないのはどれか。

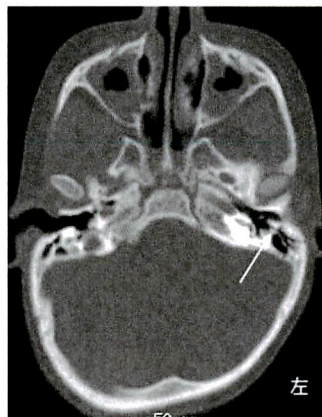
- a 圧 痛
- b 筋性防御
- c 腸雑音亢進
- d 肝濁音界消失
- e Blumberg徴候



胸部エックス線写真

- 21 25歳の男性。バイクを運転中に転倒し救急搬送された。ヘルメットに亀裂を認めた。意識清明。
左外耳からの出血と、左耳介後部の皮下出血を認めた。頭部単純CT骨条件にて骨折を認めた(矢印)。
予想される症状はどれか。

- a 複視
- b 嚥下障害
- c 視力障害
- d 嗅覚脱失
- e 顔面神経麻痺



頭部単純CT

- 22 25歳の男性。自宅に引きこもっていることを心配した両親に付き添われて来院した。22歳の時に大学を卒業し保険会社に就職したが、「監視されている」、「悪い噂を流されている」と言い、ブツブツと独り言を言うようになったため、4か月間入院した。会社は退職したが、その後就職活動もしないで自宅で過ごしている。意欲や自発性がなく、感情の抑揚も感じられない。定期的に通院し服薬は続けている。

この患者の心理・社会的側面への配慮として適切でないのはどれか。

- a 精神科デイケアへ導入する。
- b 就労支援のため、地域作業所への通所をすすめる。
- c 精神疾患の心理教育プログラムに患者を参加させる。
- d 生活技能訓練を通じて対人関係スキルを向上させる。
- e 薬物療法を中止して精神科リハビリテーションに参加させる。

- 23 55歳の女性。全身の皮疹と発熱のため搬入された。

現病歴：5日前から頭痛、咽頭痛があり、他院で処方されたセフェム系抗菌薬を内服していた。

2日前から発熱が持続し、眼、口腔内、および体幹四肢に皮疹が出現してきた。

既往歴：特記すべきことはない。

現 症：意識は清明。身長158 cm、体重51 kg。体温39.7℃。脈拍116/分、整。血圧102/70 mmHg。全身に紅色皮疹を認める。眼の写真と口腔内の写真を示す。

検査所見：尿所見：蛋白（-）、糖（-）、潜血（-）。血液所見：赤血球380万、Hb10.8 g/dl、Ht 32%、白血球9,400、血小板24万。血液生化学所見：総蛋白6.4 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、尿素窒素5.5 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、AST 104 IU/l、ALT 283 IU/l、LD (LDH) 487 IU/l (基準176~353)、Na 129 mEq/l、K 3.8 mEq/l、Cl 94 mEq/l、CRP 15.8 mg/dl。



眼の写真



口腔の写真

適切な治療法はどれか。

- a 抗ウイルス薬
- b 抗アレルギー薬
- c セフェム系抗菌薬
- d 副腎皮質ステロイド薬
- e 非ステロイド性抗炎症薬

- 24 ある病院で患者会を開催したところ、以下のような意見が出た。

患者A「この病院の手術件数や手術の成功率を知りたいと思います」

患者B「私は院内感染が心配です。なにかデータはありませんか」

患者C「診察の待ち時間は平均どれくらいでしょうか」

患者D「胆石の手術をうける予定ですが、入院日数は他の病院に比べて短いですか」

こうした疑問に答えるために最も適切な方策はどれか。

- a 診療録の開示
- b 患者満足度の調査
- c 病院機能評価の受審
- d クリニカルパスの作成
- e 臨床機能評価指標<クリニカルインディケーター>の公表

25 67歳の男性。胃癌による幽門狭窄のため中心静脈栄養を開始することとなった。右鎖骨下静脈を穿刺して中心静脈路を確保した。確認のため胸部エックス線撮影を行おうとしたところ呼吸困難を訴えた。右胸部が打診上鼓音であり、呼吸音が減弱している。

考えられるのはどれか。

- a 血 胸
- b 気 胸
- c 肺水腫
- d 空気塞栓
- e 縦隔気腫

次の文を読み、26～27の問いに答えよ。

58歳の男性。労作時呼吸困難が増悪してきたため来院した。

現病歴：5年前から時々咳嗽を認めていた。2年前から駅の階段で呼吸困難を自覚していた。半年前から平坦な道でも休まないと歩けなくなっている。

既往歴・家族歴：特記すべきことはない。

現 症：意識清明。身長162 cm、体重54 kg。体温36.0℃。呼吸数14 / 分。脈拍80 / 分、整。血圧124/74 mmHg。室内気吸入下SpO₂ 95 %。頸静脈の怒張はない。両肺野で呼吸音が減弱している。心音純。下腿に浮腫を認めない。

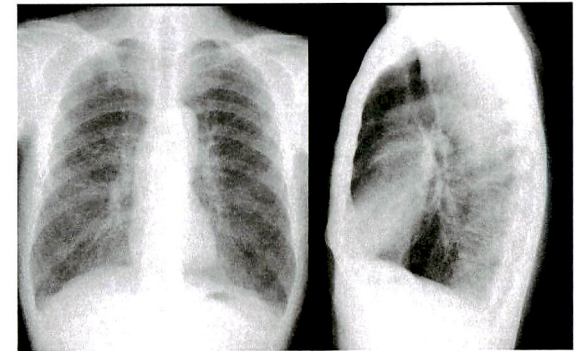
検査所見：動脈血ガス分析（室内気吸入下）：pH 7.40、PaCO₂ 41 Torr、PaO₂ 70 Torr、HCO₃⁻ 24 mEq/l。血液学所見：赤血球460万、Hb 14.8 g/dl、白血球5,300、血小板14万。血液生化学所見：AST 22 IU/l、ALT 18 IU/l、LDH 208 IU/l（基準119～229）、UN 14 mg/dl、Cr 0.7 mg/dl、血糖88 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 104 mEq/l。CRP 0.1 mg/dl。BNP 12.8 pg/ml（基準18.4以下）。胸部エックス線写真を示す。

26 まず聞くべきことはどれか。

- a 喫煙歴
- b 職業歴
- c 住居環境
- d 海外渡航歴
- e ペット飼育歴

27 診断に必要な検査はどれか。

- a 胸部造影CT
- b 6分間歩行試験
- c スパイロメトリ
- d 気管支内視鏡検査
- e 肺血流シンチグラフィ



胸部エックス線写真

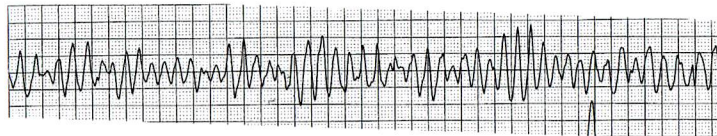
次の文を読み、28～29の問いに答えよ。

病院正面玄関で70歳くらいの男性が突然倒れた。呼びかけにも意識なく、呼吸を感じることができず頸動脈でも拍動をふれないことからCPRを開始した。

28 外来に備え付けのAEDを装着したところ図のようなモニター波形であった。

この心電図所見で正しいのはどれか。

- a 心室頻拍
- b 発作性上室性頻拍
- c WPW症候群
- d 心室細動
- e 心室性期外収縮



図

29 突然の心肺停止で頻度の高いものはどれか。

- a 肺気腫
- b 急性心筋梗塞
- c くも膜下出血
- d 肺動脈血栓症
- e 食道静脈瘤破裂

次の文を読み、30～31の問いに答えよ。

68歳の男性。右下肢のしびれと意識混濁のため救急搬送された。

現病歴：午前2時頃トイレに行ったが、30分経過しても帰って来ないため、妻が見に行ったところ、トイレで倒れているところを発見した。右下肢のしびれを訴え、意識も混濁していたため救急搬送となった。

既往歴：45歳時に会社の健康診断で高血圧を指摘され、50歳時より治療を開始したが、60歳時より自己中断していた。

生活歴：喫煙20本/日を40年間。機会飲酒。

家族歴：父親が59歳で突然死。

現 症：開眼し、見当識障害はないが、完全に意識清明とは言えない。体温36.2℃。呼吸数27/分。

脈拍60/分、整。血圧は、右上肢82/-mmHg、左上肢162/36mmHg、右下肢68/-mmHg、左下肢98/40mmHg。心音と呼吸音に異常を認めない。

検査所見：心電図は異常なし。頭部単純CTを図示する。

30 次に行うべき検査として適切なものはどれか。

- a 脳 波
- b 心エコー
- c 頭部MRI
- d 胸部造影CT
- e 心臓カテーテル

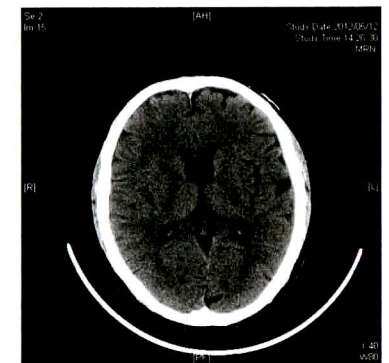


図1 頭部単純CT

31 至急投与すべき薬剤として適切なものはどれか。

- a 降圧薬
- b ヘパリン
- c 血栓溶解薬
- d 塩酸モルヒネ
- e 副腎皮質ステロイド薬

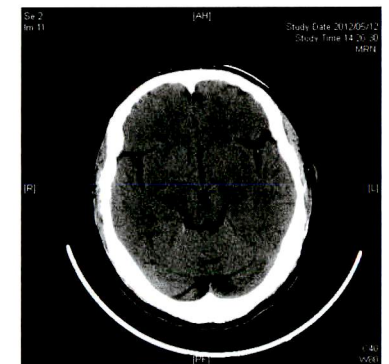


図2 頭部単純CT